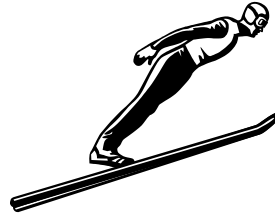


Circle for Elegant Ski



SPUR

2013 -14 Season



はじめに

皆様こんにちは。第48代渉外部の田嶋と申します。

さて今年も現2~4年生に **Spur** を書いていただきました。

「**Spur**」…ドイツ語で「軌跡」を意味します。昨シーズンを振り返り感じたことを言葉にし、次への目標を立てる場であります。文字におこすことで、いわば積極的に、この1年の自分と向き合える機会であると思っております。

「軌跡」とは一度立ち止まり、振り返ったところで初めてその存在に気づくもので、この「軌跡」があるからこそ、次の「道」という名の目標を目指すことができるのではないのでしょうか。進んだ「道」はやがて「軌跡」となり、また刻まれていきます。一昨年この「道」に進もう！と決めた通りの「軌跡」を刻んだ部員もいれば、目指した「道」が「軌跡」とはならず、異なるものとなった部員もいます。

軌跡のつき方は人それぞれ。部員一人一人の昨シーズンの思いと来季への意気込みとともに、スキーに対する熱い感情を感じていただけたら幸いです。

今年も昨年と同じく、たくさんの1年生が入部してくれました。是非1年生にも先輩たちの思いを感じてほしいです。学年が近い先輩はフレッシュな、そして上の先輩は奥が深い内容となっていると思います。

一人一人の気持ちがこめられておりますので、是非最後までお読みください。

2014年6月2日 第48代執行部 渉外部

田嶋 彩野



<4年目>

Spur

第47代会長 水戸 京

この一年間を振り返るにあたって、まず、執行部として苦楽を共にした、同期全員に感謝を言いたい。ありがとう、お疲れ様。

加えて、僕たちを支えてくださった先輩方、僕たちについてきてくれた後輩たち、そして、エレガントスキー部に関わってくださった全ての方々ありがとうございました。

全体として、良い結果のみを見れば、僕たちエレガントスキー部が確実に実力をつけていることはわかる。しかし、当初、掲げていた目標が全て達成できたわけではない、エレガントスキー部はまだまだ上を目指せる。上手くなれる。目標や目的を全員が共有することが大切であり、基本的に個人競技であるスキーであれば、チームとして、このことは、より大切なことだと思う。部の人数が増えても、根本的にやることは変わらない。部員、全員がスキーを楽しみ、練習し上手くなる環境や雰囲気作りを、新しい執行部には期待している。

個人としては、今シーズン、スキーがとても楽しかった。色々なことが今シーズンもあったが、とにかく楽しかった。昨シーズンから見て、どうすれば自分は上手くなれるのか自分で考える時間が多かったし、練習量も圧倒的に去年とは違っていた。その分、自分自身の成長が嬉しかったし、出来なかつたり、結果がでないと、とても悔しかった。また今シーズンは、というか今シーズンも自身の滑りの仕上がりの遅さは、少し反省したい。そして自分は部長だったわけだが、他の人の目には僕がどう映ったのか、部長としての責務は果たしたのかな？判断は、各人に任せます・・・。

また師匠として迎えたシーズンであったが、弟子は順調に成長してくれた。自分の出来るすべては教えたつもりだが、一番は当人たちの努力が今シーズンの成長に良い影響をしていると思うよ。二人とも、もっと上の結果を目指せたんじゃないのかな（笑）？来シーズンも頑張れよ！

来シーズンは、研究室等で思うように日程が都合つかないかもしれないが、道大会に出られるならば、決勝を目指す。また、岩岳はスーパーシードを取った今、さらに上の眺めを見に行きたい。今シーズン、うれしい思いも、悔しい思いをした団体も優勝を目指す。少し欲張りすぎたかな？ま、これでいいか。

最後に来年もクリスタルトロフィーが飲み会にありますように。

Spur

岩城 里奈

学年内唯一の函館移行生として、函館でのスキー生活を開拓してから1年が経ちました。当初はエレのPVやブログを見て寂しがり、札幌での生活を懐かしく思うばかりでしたが、教育大函館分校のスキー部に参加させていただくようになり、新しく函館での仲間を得て充実した生活が送れるようになりました。

今シーズンは同期が執行部として活躍した年でしたが、私は3年目でありながら運営には関わることができませんでした。同期の努力と、それに付いてきた成果に対して純粋に尊敬の念を感じています。また、スキーに対する愛情、弟子への指導、どれをとっても感心するばかりで、札幌に帰った時に圧倒されるくらいでした。これがエレの強みであるとともに、より発展していく原動力なのだろうと思います。

さて、今シーズンの私の個人的な目標は岩岳2ケタの順位・エレにたくさん関わることでした。岩岳個人戦には授業の関係で出場することができませんでした。後者は自分なりに達成できたと思います。周りの函館キャンパス生と比べても札幌の活動に参加していた回数は相当多かったのではないかと。春休みいっぱいエレに参加できたことで、1年生ともたくさん関わることができて、部員らしい活動を少しはできたのではないかと思います。

今シーズンの私の一番大きな収穫は、やはりスキーの幅広さを知ることができたことだと思います。エレの練習や合宿での真面目なスキー、教育大での自分たちで考え生み出すスキー、インストラクターをすることによる教えるスキー、クラスメイトと行く初めてのスキー、山スキー部やスノーボーダーと行く驚きのスキー、その他多数。とにかくこの1年でたくさんの人とスキーに行きました。それぞれの団体のそれぞれの人がそれぞれ違った考えを持っていて、スキーってこんなに幅が広いものなのだと感じました。大学を卒業してからも何らかの形でスキーを続けたいと思えるようになりました。また、今後につなげるためにも、学生でいられる最後のシーズン、悔いの残らないように思い切り楽しみたいと思います。

函館から4年目の部員が戻るがありますので、仲間に入れてください。特に1年生！！

目標：岩岳 50 位

去年 1 年を振り返ると、まず男子岩岳 2 連覇を達成できたのが本当に嬉しい。
執行部としてエレを優勝させることができた充実感でいっぱいです。

1 年間執行部をした反省としては、広報部長として HP の管理（ブログや写真）が曖昧に
なっていたことと、後輩に対して強く怒ってあげられなかったことの 2 つです。
執行部に与えられた責任に対して自分は甘かったと少し後悔しています。

次に弟子について。

2 人とも 1 級を取ることを目標に頑張っていたので、それを達成させることができたのは良
かったと思う。ただ、指導としては丁寧すぎたかな。

弟子の実力を考えたらもっと難しいことに早い時期から挑戦させれば、大会の結果も変わ
っていたはずなので今年の弟子の指導に活かしたい。

最後に個人について。

去年は 3 年間で一番スキーが楽しくまた成長できたシーズンだった。

オフシーズンのころから、自分の目指したい滑りを具体的にイメージできていたからこそ
上達できたと思う。

それだけに岩岳を滑ることができなかったのが残念だった。

このタイミングで怪我をすとか・・・自分の運の悪さに驚くと同時に、応援してくれた
先輩や後輩、そして団体メンバーには申し訳ない気持ちでした。

岩岳でないまま現役を終わりたいわけではないので、早く運動できるようにリハビリを頑張りた
い。

4 年目ぐらいは悔いのないシーズンにしたいな。

SPUR

神村 圭哉

執行部としての1年間はこれまでのシーズンで1番早く過ぎていった。部を運営する立場となってこんなにも考えることがあるのかと驚く一方で普通に暮らしていたらまず経験できないことをたくさんさせてもらった。

最たるものが学連の仕事で多くの大学生、スキーヤーの方々と合宿や大会を作っていくというのはとても難しく、面倒で、貴重な体験だった。一方で学連役員は僕を含め仕事に関して楽観的な人が多く、失態も多くてみんなには迷惑をかけてしまった。まあ来年の役員はしっかりしてるので大丈夫だろう。

個人としては岩岳スーパーシード、道予準決勝進出を目標に掲げて練習に取り組んでいたが、岩岳での目標は無事達成できた。部の総合優勝にも貢献でき、これについては純粋に嬉しかった。

次の目標は表彰台だ。これまでよりも厳しい目標だが、ここまで来たらこれしかない。できるだけ頑張ってみようと思う。

岩岳について心残りなのは団体戦だ。Bチームでトップになり、優勝を狙っていたが結果は5位。Bチームとしての練習は凄く楽しかったし、決して優勝が不可能なチームではなかったと思うが、振り返ってみるとトップとして経験者としてまだまだやれることが沢山あったと感じる。来シーズンもし機会があるのならもう一度トップでリベンジしたい。

もう一つの目標であった道予は事情により出場辞退という結果となってしまった。来シーズンは必ず出場し自分が納得できる結果を残したい。

目標を達成するためには、上達のピークをどこに持ってくるかが大事だと思う。これまでの経験から自分のピークは選考会あたりに来て、あとはその状態をキープするので精一杯という感じだった。やはり団体練をはじめとする公式行事が多くなり、集中して個人の練習に取り組めていなかったのがその一因だと思う。しっかり岩岳までの自分の練習プランを立てるようにして練習に臨むべきだ。あとはシーズンを通してスキーができる体力作り。それとネックであるコブをなんとかせねば。これまでの結果を見てもコブがすべて足を引っ張っている。コブの上達なしには次のステージには進めない。というわけで来シーズンは是非とも KGY に弟子入りしたいと考えている。はやく膝治ってくれ！！

今年も1年生がたくさん入って新たなメンバーでエレの活動が始まるわけだが、4年生になると少し余裕をもってエレの活動に参加できるなというのが最近の印象である。これまでよりも一歩ひいて客観的にサポートしてあげたいと思う。来シーズンはエレで過ごす最後のシーズンなので、個人の目標を達成するのはもちろんのこと、これまでに経験

したことを活かして師匠や公式行事もしっかりやりぬき少しでもお世話になった分をエレに還元できるようにしたい。

以上

Spur

栞子 健太郎

今シーズンは自分にとってこれまでで最も充実したシーズンとなりました。就活やゼミ等スキー以外でやるべきことが他にたくさんあった中で、スキーへ行き上手くなることを最優先に考えてきました。多分岩岳出発前までの滑走日数は今シーズンが最多ですね。しかし執行部という立場で部のことを最優先と考える余裕はなく、自分のことばかり考えて他のメンバーに迷惑をかけてしまった点には反省しています。

まずは個人の立場で今シーズンを振り返ろうと思います。今シーズン意識し続けていたのはやはり個人戦選考会を通過することです。昨シーズン選考会に落ちたこと、そして部をまとめる執行部という立場であったことから、今シーズンは何としてでも岩岳に出場したいという思いがありました。結果として岩岳の個人戦は散々で落ち込みましたが、僕一人で戦っているわけではなく、みんなのおかげで立ち直れました。個人戦の鬱憤を晴らそうと臨んだ団体戦ではBチが実力以上の力を出せたので良かったです。

また師匠も経験しましたが、教える難しさを感じました。もっと計画的に教えていくべきだったと今になって反省しています。力の足りない師匠でしたが、弟子2人ともついてきてくれて感謝しています。また2人とも岩岳でポイントとってくれたので師匠としてはうれしく思います！来シーズンはこれまで以上のやる気を出して頑張りたいと思います！

最後に来シーズンへの抱負を。来シーズンは、今シーズン苦勞した就活もないし授業もないので今まで以上に真剣に取り組み最後のシーズンをやり遂げたいと思います。

西川のしゅぷーる

西川 隆将

①はじめに

どうもみなさん。西川です。今回はこのような自己主張の機会を頂いたので、みなさんの響きを買わない程度に先シーズンのことを書いていきたいと思えます。

当初、「読んだらどんな人間でも不快な気持ちになるシュプールを書いてやるぜウエッフエッフエ」と思っていました、めんどくさくなったので真面目に書きます。

この文章が長いあいだホームページに残ることを考えると恥ずかしい限りですが、「未提出」と載るのはもっと恥ずかしいので、貴重な時間を割くこととしましょう。

このシュプールにはスキーが上手くなる心がけだとか技術だとかは一切書くつもりはないので、そのようなことを期待している人は我慢してお読みください。

それともう一言言っておきますが、僕のことを「本気」関連でいじるのはやめてください。

②シーズンについて

思えば先シーズンは長く辛いシーズンだった。自分でもよく乗り切れたと思う。去年のシュプールにも書いたとおり、「もうスキーは嫌」と思っていた自分をこの部につなぎ止めていたのは義理のみであったからだ。今だから正直に言うと、学連や執行部という責任がなければ自分はこの部をやめていたと思う。

去年の今時期、私はシーズンインが不安でしょうがなかった。特にトレ中はこの先に大きな苦難が待ち受けていることを忘れるために必死ではしゃいでいた気がする。このようにスキーのことを思い出さないようにしても、トレ中や夜寝る前の短い時間に、スキーのことがフツと頭に浮かんでどんよりとした気分になったことが何回もあった。皆さんが「早くスキーがしたい」と口にしての聴くと、気持ちの悪い何かが心の中に渦を巻いた。

このような状態であった自分がシーズンを乗り切ることができたのは、ちょうど夏休み頃、自分の心境の変化があったからだ。どうせスキーに関わらざるを得ないのならできるだけ楽しもうと思ひ始め、そのように心がけていると自然とエレの活動自体が楽しくなっていたのを覚えている。そして迎えたシーズンイン、今振り返ってみるとこんな私でもそこそこスキーを楽しめたような気がする。しかし、活動の大半は責任感が自分を動かしていたので、辛いには変わりなかった。それでもこの責任感がなければ師匠としてもままならなかったと思うし、結果的にはよかったと思う。スキーをしたことで失った時間分はいい思い出を作れたのだと今なら自分を納得させることができる。シーズン中は色々あったし、書くネタはたくさん思いつくがここにはあえて書かない。純粋な未来の一年目がこれ以上自分の文を読むと毒にしかならないと思うからである。決して途中でめんどくさくなり、「まだまだ書けるけどそこそこ書いたしこんなもんでいっか！」と思ったわけではない。一年目のためを思っただけのことである。

②目標

先シーズンの目標は「エレガントスキー部への恩返し」だったで、一応達成できたとは思う。恩返しのウエイトの半分位を占める師匠活動については弟子二人から「来年も教えてください」という非常にありがたいお言葉をいただいたので、師匠については合格水準に達していると自分で勝手に思っている。お世辞でも嬉しかったです。思えばこんなこともあり



こんなこともあった。



しかし、自分の中で弟子二人共に一級を取ってもらいたかったのですが、そのことだけが心残りではある。そして今年の経験を活かしてもっと上手くすることができる自信があった

けに、今年師匠ができないのは少し寂しい。師匠についてこれ以上書くのは恥ずかしいのもうやめにする。

学連については語るに資することはありませんが、とりあえずやり抜いたのでよしとします。合同合宿大変だったなー。

ま、自分が過ごした 1.5 年分の恩は返せたでしょう。

③今シーズンの目標

～公認会計士試験短答式本試験突破～

すいませんこれしかないです。多分大半の部員がとりあえず書く目標である道予準決勝とかスーパーシードとかよりは難しいので、上の代から「目標低くない？」とお叱りのメールが来ることはないでしょう。わざわざこのように書くまでもありませんが、私は今年度のエレガントスキー部にあまり関わることはできません。楽しい楽しいエレガントスキー部の四年目生活を手放すのは非常に心惜しいものがありますが、自分で決めた道なので仕方ないですね。現執行部には何かと協力できないことを申し訳なく思います。とりあえず 12 月の試験に受かったら、僕のありがたみが分かる程度の頻度でちよくちよく顔を出したいと思いますので、皆さんは悔いのない一年を過ごすために頑張ってください。

④終わりに



※僕が何を言いたいのかは画面の前のあなたのご想像におまかせします。

「俺は絶対エレスキ入る！！」そんなことを語っていたアイツ馬鹿にしていたのが懐かしい。いま、彼とは同じ研究室に所属している。なんかここまできると、運命ってあるのかな～と思う。エレに入ったのも偶然ではなく、なにかに導かれているように思えるようなそうでないような。後輩は知らない人も多いと思うが、僕はもともとスキーがしたくて入部したわけではない。詳しいことは過去のシュプールを見てくれれば書いてあるので省くが、てきとうに入部したつもりが、いまやエレ依存症、スキー馬鹿になっていることを考えると、本当に不思議だな～と思っているわけです。

さて、今シーズンの反省をしますか。

今シーズンはバイトもできる限り抑えて、勉強もできる限りサボって必修落としたりもしたが、かなり練習したつもりである。しかしながら、岩岳では総合優勝こそしたものの個人戦、団体戦、また師匠としても何一つ満足いくものはなかった。

今シーズンは始めから自分でも怖いくらい調子がよかったが、札予や選考会で点が出過ぎたために自惚れ、迷走を始めた。今思えばありえないくらい点が出ていたわけなので、それで満足してコブとかもっと頑張るべきだった。・・・自分に甘い性格を直さないと、来シーズンもまたロングターンばかり練習してしまいそうだが、そうなったら誰か止めてください。m()m

師匠としても反省することだらけである。オフでたいして絡んでいなかった風花なんかは最初仲良くなれるか不安もあったが、2人とも本当に良い弟子だったと思う。すごくよく話を聞いてくれたし、公式練の復習もちゃんとしてくれた。それだけに、自分の迷走から教える内容がぶれたりして、周囲から期待されていたような成長をさせてあげられなかったことが申し訳ない。自分をもっとしっかりしていれば、能登は表彰台に乗れただろうし、風花はたじーにも劣らない実力がついていたと思う。ただ、公式練は非常に楽しかった。ここまではちゃけていた班は稀だと思う。・・・それがいけなかったのか・・・？

2人とも、こんな馬鹿についてきてくれて本当にありがとう。

最後に、来シーズンにむけて。週末スキーヤーになる気配が漂う来シーズンの目標は、怪我をしない、弟子をみんなの予想よりも上手くする、**Enjoy ski for life.** そして、去年シュプールに書いた通り、自分のやりたいようにやって失敗した今シーズンの反省を生かし、来シーズンは芯を通して練習していきたい。

最後の岩岳は、笑って終われますように。

Spur

三浦 和仁

○執行部

執行部が始まって当初、岩岳優勝はこのままだと厳しいと思っていた。結果としては圧倒的な差をつけての優勝だったけど、すごくホッとした。部を運営していくのは本当に難しいね。自分はあまり前に出ていくような性格ではないけど、もう少し水戸の代わりに仕切ることができたら良かったな。俺が1、2年生の時の執行部の先輩方はかなり大人に見えた。後輩たちにはそんなふうに見てもらえてるかな。自信はないけど、とりあえず、執行部を経験して少し物事を余裕を持って見られるようになったとは思う。

○今季の結果

札予 44 位

道予予選落ち

岩岳 108 位

朝里 34 位

全然良くない。特に札予と朝里は去年と同じ順位で正直がっかりした。新しい環境を求めてチームに入って滑りは変わった。チームの先輩にはお前の滑りならもっと上に行けると言われ続けてきたけど結果が出なかった。じゃあ、何が悪いのかというとやっぱりメンタルだと思う。自分らしいといえばそれまでだけど自信を持って滑ったのは数本くらい。大会になるといつも考えすぎ、全く思いきりが無い滑りになっていてジャッジにもそれが伝わっていた。やっぱり大会はあまり考えず思いきり滑る方が自分には合っていると思う。もっと早く気付ければ良かったな。結果は良くなかったけど、大会中に腐らずコントロールなどやるべきことをしっかりやったのは本当に頑張ったと思う。

あとはトータルで足を引っ張っていたのは小回り。今までロングから練習を始める習慣が付いていたせいで小回りに割く時間が極端に少なかったことが原因だと思うので、小回りとコブだけやる日を作るとか来シーズンはしなきゃな。(遅いけど…)

岩岳団体戦は初めての経験だったけど、規定で1位取れて良かった。Bチームは本当にいい雰囲気での練習ができたと思う。でも、緊張感がないと言われればそうだったかもしれない(笑)スタート前、セットしたときに上から見た景色は忘れられない。チームを背負って滑るっていうのはすごく緊張するけど、来シーズンも経験したいな。

○師匠弟子

弟子をうまくする責任があるから何を教えるかはかなり考えた。正直なところ俺がうまくしたのかどうかわからないけど、師匠とは違って二人とも結果を出してくれて良かった。特に岩岳の新人戦で二人とも表彰台に乗ってくれたのはすごく嬉しかったな。あの時は珍しく感情を表に出して喜んでた気がする(笑)羽田は絶対に表彰台いけると思ってたけど、島村はあんまり自信がなかった。だから、あいつが壇上で号泣してるのを見て俺ももらい泣きしそうになった(笑)シーズン始まる前は主に片方の弟子(笑)のせいでどうなるかと思ったけど、二人を弟子に選んで良かった。弟子を見ていて気付かされることもたくさんあったし(特に意識の面で)、すごくいい師弟関係だったと思う。岩岳の総滑での二人の滑りは今も覚えている。そんな印象に残る滑りを俺もできるように頑張る。

来期の目標

岩岳、朝里 10 位以内

道予決勝

あと 1 年しかないので危機感を持って努力する。

やれば変わる。

Spur

向井 文梧

気づけばもう 4 年目。最後の spur。感慨深いものがあつたりはしないけど。

さて。執行部としての一年を終えて、何より岩岳の優勝旗を今年も持って帰ることができて本当に良かった。関わってくださった全ての方に感謝。反省点としては、団体の頂点に立てなかったこと。あの大学の連覇を止められなかった。次の大会ではエレがトップを。

初めて師匠としてシーズンを過ごした。序盤は教程の変更・新検定にやや振り回されてしまった。弟子よ、すまん。それでも最終的に自分が一番大切だと思うことは伝えられたと思う。来年はよりよい師匠となれるよう、オフから心がけよう。自分の感覚を言葉にするってのは本当に難しい。

細かい技術的なことはまあおいといて。課題であったロングが改善したことは大きかった。札予で点が出たり、選考会で最下位だったりとなかなか荒れていたが、岩岳ではしっかりと結果を残すことができた。一説によると板のおかげらしいが、来年も同じ板なので気にせずにいこう。新人戦で転倒し、二度とチャンスがないと思っていた表彰台に立てたことは本当に嬉しかった。リザルトをみて連絡くださったみなさん、ありがとうございます！正直言って自信はないが、来年は一つでも順位を上げられるよう頑張ろう。目標は全種目一桁で。

エレの現役最後、というだけでなく学生生活ラストでもある今年。授業なし、卒論なし、ゼミなし、研究室なし、というこれぞ人生の夏休みのチャンスを目一杯利用して遊び回りたい。夏は遊んで、冬はスキーして。みんなぼくと遊んでください！

<3年目>

シュプール

第48代会長 涌井 初

今シーズンの目標：道大会準決勝進出、岩岳個人スーパーシード獲得、岩岳団体戦優勝、岩岳団体総合優勝、テクニカルプライズ取得、朝里大会 15位以内

昨シーズンを振り返って思うことは、それなりに頑張った結果が出たかなということである。小樽予選を最下位ながらも突破し、道予選にも出場することが出来た。岩岳大会では団体 B チームとして出場、個人戦 136 位。結果だけ見ると普通なのだが、しかし、どの大会も自分が満足できる滑りは出来なかった。道大会ではルスツの斜面に全く歯が立たなかったし、岩岳も全然うまく滑れなかった。当時のビデオを見返してみると、滑りは下手だし、シーズン途中から何も滑りは変わっていない。正直言って昨シーズンは自分にとって反省すべきシーズンである。原因を考えてみると、勉強不足だったり意識が足りなかったりするのだが結局最後には、自分がまだまだ本気ではないというところに行き着く。スキーがうまくなりたいと思っているなら、結果的に勉強するし、スキーも行くし、意識も高まるというのが結局のところなのだ。意識が変われば行動が変わる……みたいな言葉があるが全くその通りで、意識が変わらない奴は変わらないのである。

来シーズンはそんな風にならないようにすべく、食欲にたくさん目標を掲げた。この目標を全部とりにいく。この目標が全部達成できなければ、髪を丸坊主にするぐらいの気持ちでやる(笑)。シーズンが終わったあとに、「それなりに頑張ってそれなりの結果が出た」から「頑張って結果が出た」と胸を張っていえるようにする!

また、今年度は自分が部長として臨むシーズンである。今まではエレのこととか全然考えてなくて、ただ部の一員としてスキーをしていればいいだけだった。しかし今年は執行部として、部を運営し部の全体の責任を取る立場になった。実際に執行部になってみて歴代の執行部の方々のすごさに気付かされる。自分もそんな先輩の姿をみてこの2年間過ごしてきた。そんな先輩作り上げてきたエレをよりよいものにすべく全力で頑張りたい。正直まだまだ部長としてなにも出来ておらず、同期にも助けられてばかりだ。そんな自分であるが、常に周りを見て、いろいろなことに気づけるようにし、自分なりの部長像というものをもってやっていきたい。

最後になりましたが昨年師匠をしてくださった、小沼さんには本当にお世話になりました。感謝しています。また同期そして先輩方、後輩にもいろいろとお世話になりました。では、みなさん来シーズンもスキーを楽しんで、よりよいエレにしていきたいと思います。

SPUR2014

第48代副会長 北尾 俊喜

目標

- ・ 道大会準決勝進出
- ・ スーパーシード権
- ・ 岩岳三連覇

・朝里グリーン、オレンジコブ」で 91 オール以上

・目標について

来シーズンの目標は来シーズンに達成出来ないといけない目標を書いている。来年のシュプールには確実に今年目標を全て達成出来て良かったと冒頭に書いているはずだ。4年目の目標を達成するためにもこれらの目標は達成する。

・今年の振り返り

今年を振り返ると「あと一歩！！」というのが多かった。樽予の最終種目フリーでの転倒、岩岳のこぶでのびびり、朝里のオレンジでの転倒。少し思い返すだけで次々と出てくる。だが、今年のシーズンは悪いところだけでなく良いところもあった。今シーズンは徐々に勝負強さを獲得していったシーズンであった。スキーにおいて勝負強さは最も重要な能力である。練習でいくら上手く滑れても本番で上手く滑れないと何の意味もない。勝負強さをどうやって獲得するかを何となくわかったのも今シーズンの良かった点である。

・来シーズンについて

来シーズンは最初で最後の執行部として迎えるシーズンである。全てに対して納得のいくシーズンを送りたい。また、初めて弟子を持つシーズンになる。今まで自分が経験してきたことを生かして弟子は必ず上手くする。

最後にまとめとして今シーズンを一言で言うと「基礎スキーの種目においてコブがあって良かった」という一言に尽きる。

来シーズンを一言で言うと「1ヵ月に1回全種目変化を起こす」

これを念頭において来シーズンも全力で頑張る。

あと、やっぱりスキーはやめれない。

昨シーズンを振り返るに当たって、まずはこの 1 年間面倒を見てくれた師匠を初めとする同期、先輩方に感謝します。特に水戸さんには不甲斐ない弟子でしたが最後まで面倒を見てくれてありがとうございます。

さて、技術的なことは技術論で書くので割愛しようと思う、まず初めに昨シーズンの反省をしていきたいと思う。

昨シーズンはシーズン初めにあまり滑走日数を稼げなかった、理由としては雪の降り初めが遅く ONZE がなかなか開かなかったことがある。そのことにより樽予に出る同期とスキーに対する意識に若干のズレがあるように感じられた。

このような感じでメイン合宿、札予を迎えたが滑りに対するイメージが固まらずまだブレブレの滑りをしていた。この時はただ滑っていれば上手くなると考えていて実際少しは上達していたのだと思う。しかしそれだけでは一年生の頃に染み付いてしまった癖は取れず間違った方向に進んでいたのだと思う。

こうして選考会を迎えたのだが、正直通過できるとは思っていなかった。小回りは何をすればいいのか確立できておらず、ロング板は全然乗っていなかった。今となっては信じてもらえないだろうが ONZE のコブは当日の直前まで一通で来ていなかった。だが本番ではコブで大爆発して、コブ組として選考会を通過した。

今思えばこの時が本当の意味で 2 年目もシーズンの始まりだったと思う。落ちてしまった同期や先輩方の分まで頑張らなければいけないと思い、真剣にスキーについて考えて行ったのである。

それからは少しずつではあるが順調に上達して岩岳前には安心して岩岳に行ける程度までになっていた。これは団体戦の練習がなかったことが大きかったと思っている。

岩岳は初めての個人戦ということで予選では異常なほど緊張していた、通過して当たり前、お前なら余裕だとは言われていたがやはり不安でしかなかった、改めて考えるとなんて勿体無いことをしたのだろうか。もっとのびのびと滑ればもっと楽しめたと思う。結果としては 125 位であり自分としてはよくやったと思うが、正直もっと上を狙えたと思う。

岩岳の後はあまりスキーに行けなかったが、朝里大会ではコブのコツをつかむことができた。

その後の春練でもコブを集中的に練習することで最も自信の持てる種目にする事ができたのはやはり大きいと思う。

これから二年目のシーズンを迎えるであろう 2 年生のために書いておきたいのは、二年生で重要なのは一年生の頃に染み付いてしまった癖を取り除き、何か一つでもいいので絶対的な自信を持てる種目を見つけることである。またただ滑っていれば上手くなるのは一年生までで二年生ではしっかりと考えながら滑る必要がある。

毎年のことながら選考会はシーズンインしたらすぐにやってくる。

その選考会を通過する為に重要なのはやはり、シーズン初めのスタートダッシュなのだ！

来シーズンはスタートダッシュをバッチリ決め、絶対に通る自信をもって選考会に臨みたいと思う。

来シーズンの目標は自分の納得できる滑りをする事である。基礎スキーは他人に評価されるスポーツではあるが、自分が納得出来ない滑りでは楽しくない。

スポーツは楽しんでなんぼである、気楽に楽しく滑って結果までついてきたら言うことなしだろう。

SPUR

田嶋 彩野

目標：岩岳総合優勝、団体 2 連覇、岩岳個人戦表彰台

早くも入部から 2 年がたち、遠い存在であったと思っていた執行部となりました。まだまだ始まったばかり、執行部についての SPUR は来年のお楽しみということで・・・

去年はオフシーズンもシーズン中も一言で言うと、「充実」しておりました。去年は辛かっただけの筋トレ、スタビラにも楽しみを見いだせるくらい、オフシーズンのトレも積極的に取り組んでいた気がします。2 年生から学部の授業が始まり、実習などで思うようにスキーに行けないのではないかと、という不安もありましたが、我が学部はテスト終了時期が

遅いだけで、授業自体はそこまでぎっしりでなかったのも思っている以上にスキーに行くこともでき、滑走日数はおそらく一昨年を上回ったと思います。行ける日はひたすらスキーに行って、実習後にスキーに行こうと、白衣の下がミドラーなんて日もありました。

1年生の時と異なり2年生は停滞する時期が多く、なかなか上達できずにいました。一本一本滑りに対して自分で考えたり、悩んだシーズンでもありました。昨シーズンはまずポジション、苦手な大回り、コブの強化を目標としていました。この3つは低速練・高速練ともに集中して行ったので、まだまだ完成には程遠いですが、感覚が変わったように思います。ただ、小回りは一昨年の滑りを変えることができませんでした。ジュニア用とはいえレースタイガーにうまく操作できず、結局使いこなせないままシーズンが終わってしまいました。

今年は師匠になり、自分が教える立場で習う機会が減るので、自分で調べるなり、考えるなり、積極的に技術を学んで生かしていかなければいけないと思います。主体性！！

昨年はオーンズや藻岩で何回か当時の1年生と一緒に滑った時、うまくコメントやアドバイスができず、もやもやしていたので、今年はしっかり教えられるようにオフシーズンから知識をつけていきたいと思います。

さて、昨年は樽予突破、岩岳個人戦30位以内、そしてSPURには書きませんでした。団体優勝も目標としていました。結果樽予以外の目標は達成することができました。しかし、岩岳個人戦は表彰台まで7点足りず、悔しい思いをしました。来年こそどの種目も失敗することなくポイントをとって、表彰台に登りたいです。団体はこのメンバーで本当に楽しくでき、練習の時も本番もテンションが高いまま滑りきれたと思います。不甲斐ないトップでしたが、くまさん、あんみつさん、風花、一緒に滑れて、そして優勝できて本当によかったです！ありがとうございました！！

今年は、上にも書きましたが、この3つの目標を必ず達成したいと思います。岩岳総合優勝のための課題もいっぱいありますが、精一杯努力して、1年生の時からともに頑張ってきた3人であのてっぺんに登りたいと思っています。

今年も学部が忙しいといいつつ、実は冬場はスキー行けるのではないかと淡く期待しているのですが、行ける日は必ず行って、どんどん技術を磨いていきたいです。今年はおぶと小回り！！

最後になりましたが、師匠の水戸さんはじめ先輩方、コーチの皆さん、本当にお世話になりました。来シーズンも頑張ります！

Spur

西田 尚功

今シーズンの目標：道予準決出場、岩岳スーパーシード権獲得、岩岳3連覇

シーズンが終わり、道の雪もすべて融け、だんだん暖かくなってきた。シーズンの名残惜しさがガンガンに残っている中、今年も spur を書く季節になった。さて、spur を書くということで去年の自分の spur を読み直してみた。恥ずかしいくらい何一つ目標を達成できていない。そのため、まずは去年の反省からしようと思う。

昨シーズンは樽予通過して道予に出るって掲げていたのに、石狩連から道予に出れることになって、樽予は落ちるし、落ちたけど出れた道予でも満足のいく結果は残せず。岩岳も団体出れなかったし、朝里は準決まではよかったのに決勝で順位落として目標を達成できなかった。昨シーズンはスキーを始めて2年目で、正直2年目が掲げる目標として大きく出ていたと思う。その自覚はあったものの目標を達成する具体的なビジョンがなく、今思うと意識は低かった。すべりについて反省するとシーズン初期にショート of の具体的なイメージがわからなく、ロングの練習をしすぎた。また、自分の滑りを壊すことを意識しすぎて安定して上達することが出来ず、上達が遅れてしまった。これらは2年目のシーズンイン時で理想のすべりのイメージがあいまいであったことが原因である。また、コブが足を引っ張ったのも結果を残せなかった原因の一つである。しかし、昨シーズン自分の滑りを壊しまくったおかげですべりの幅が出たのはよかったと思う。シーズン終わりでは自分のしたいすべりが確立できたので昨シーズンの努力は無駄では無かったと信じたい。ショートに関してもシーズン終わりに良い感覚がつかめた。まだまだ下手ではあるがこれらが朝里で評価されたことは素直にうれしかったし自信になった。この方針で今シーズンは上手くなろうと思える。春先のコブ練でコブもいい感覚をつかむことが出来た。これらの感覚を土台にして、今シーズンはシーズン初期に自分の滑りを確立させ、その滑りを改善させていくことで上達したい。

今シーズンは個人として道予準決出場、岩岳スーパーシード権獲得を目標に掲げる。どっちも決して簡単な目標ではない。得点ならどっちも1種目平均250くらい。昨シーズン、道予も岩岳も出させてもらったので、道予のイメージも岩岳のイメージもわく、オフシーズンから徹底的にイメトレに励みたい。どっちの大会もミスをしないことが重要だと思う。これらの目標は絶対に達成してやる。去年のような思いはもうしたくない。

また、チームとして岩岳3連覇を目標に掲げる。今年は執行部という立場で、僕はトレ部長と学連を務める。トレ部長として部員がスキーのレベルアップにつながるようなトレを作りエレ全体のレベルアップに貢献したい。僕個人の話をするとはスキーをするには軽すぎると思うのでウェイトトレーニングなども行い筋肉をつけて重くなりたいと思う。オフシーズン中に65kgくらいまで重くなれるようにしたい。学連としては合同合宿を成功させないといけないと思う。みなさん合同合宿参加してください！！これは僕個人の話です

が最近、学連で他大のスキーヤーの友達が増え、その人達に大会で勝ちたいという気持ちが強くなってきて、いい刺激になっています。他大の友達が出来るとは良いことなのでみなさん学連行事に積極的に参加してください！！

また、今年は師匠にもなるので僕も歴代の師匠のような立派な師匠になりたいです。先シーズン、吉田さんには本当にお世話になりました。兄弟弟子にも恵まれ毎回の公式練が楽しかったです。とりあえず、焼き肉行きましょう！！

いろいろ思うことがあり、今年も長く書いてしまった。エレで 2 年間過ごしてみて本当にスキーが大好きであることを実感する。上手くなるために悩み、考えることが本当に楽しいし、気持ちよく滑れた時の爽快感はたまらない。これは上手くなればもっと気持ち良いんだろうなと思うので、僕はまだまだ下手だが、今シーズンは上手くなりたい。そして、もっとスキーを楽しみたい。エレは去年、岩岳 2 連覇を達成した。しかし個人の成績は悪く、表彰式で本気では喜び切れない自分がいた。とても複雑な気持ちだった。今年は執行部として、また、一個人として 3 連覇に貢献したい。今年の岩岳の表彰式は誰よりも元気に喜んでいたい。

シュプール

松島 浩平

2 年目のシーズンは 1 年目とは全く違うものとなった。スキーへの考え方はもちろんのこと、結果もそうだった。満足の行く結果でなかったことが「もっと上手になりたい」と思わせ、スキー理論に対する意識はより一層強くなった。

自分の滑りの映像を確認して修正するには何がおかしいのか、正しく判断しなければならぬ。そのために、スキー理論や知識を増やし、そして自分の滑りを見ている人の考えを聞く必要がある。2 年目のシーズンは自分の欠点を見つけることができず、また受け入れることができなかつたことが反省点である。3 年目のシーズンは人より多くスキーに行くことはもちろんのこと、スキーの知識、理論を増やしていきたい。そうすることで、滑りが上手くなる方向を正しく目指し、滑りが崩れた時でもすぐに修正できることに近づけると思う。具体的な目標を言うと、道大会の準決勝に進み、岩岳ではスーパーシードを取ることだ。

SPUR

宮坂 麻以

Spur を書くにあたって、今シーズンのスキーノートを見返してみましたが、1月7日で終わっていました……。まず来シーズンは最後までスキーノートを書くことを目標にしようと思います。さて、スキーノートを見ると、1ページに1回はカス、ゴミ、クズのどれか一言が必ず入っていました。きっと1月8日以降はあまりにも酷すぎて書くのを止めたのであろうことが伺えますね。

さて、そんな私の今シーズンのスキーは、師匠に「カス」と命名されたことから始まります。初期の私の目標はスキーヤーになることでしたから、滑りのひどさが露呈しています。実際初期のビデオはもう見たくもないです。

そんな感じですから、当然スキーが楽しいはずもなく、初めはオーズに行くのが嫌でした。カーオーナーの方々に無理やり連れてってもらっている感じでしたね。車中の会話が無かったら自己嫌悪で死ぬところでした。ほんとに感謝です。ただ、いくら楽しそうでも松島車には怖くて乗れなかったです。

今年は講習の機会に恵まれたおかげか、メイン合宿で新しい感覚をつかんで、そこからスキーが楽しくなってきました。確かそのころからカススキーヤーと呼んでもらえるようになりました！！教えていただいたコーチの方々には感謝しまくりです。なんか軽く聞こえますが本当に感謝しています。

そんな中迎えた個人戦選考会は、熱が出てベストなコンディションではなかったのが悔やまれます。何とか団体戦のメンバーに入れたのは良かったです。

今シーズン初の団体は、不安とふがいなさで気が狂いそうでした笑 滑って、ビデオを見ては自己嫌悪……の繰り返しで、Bチのメンバーにはたくさん心配&迷惑をかけてしまいました。Bチは仁徳者の集まりだったと思います（自分を除く）。最終的には表彰台に名を連ねることができて、本当に得難い体験でした。来年はワンツーフイニッシュ狙うつもりでいきます。

個人としては、去年のシュプールに書いた目標は達成できたのですが、やはり甘えてしまいました。こぶとか、シーズン初期にもっと入っていればよかったし、小回りも真面目に練習すればもっといい順位を取れたらと思うと思います。

来シーズンは、自分にとって最後のシーズンくらいの気持ちで、悔いなく就活に臨めるようにがんばりたいと思います。岩岳表彰台狙うくらいの気持ちでいきます笑

最後に、カスな弟子を最後まで面倒みてくださった師匠、ごみメンタルな自分を見捨てないでくれた団体メンバー、くずみたいなの滑りを寒い中撮らせてしまったサポートの方々（ごめんなさい）、ただのカスをスキーヤーにしてくださったコーチの方々、スキー馬鹿の同期たち、カーオーナーの方々、いやもうむしろすべての方々にお礼を言いたいです。

ありがとうございました！来年もよろしくお願いします！！

Spur

山口 遥香

目標：岩岳スーパーシード

「ちゃんとした目標を決めて、それに向かってどんなことができるか、自分で考えながらまずオフシーズンを過ごし、シーズンにそれをきちんとつなげていきたいです。」

昨年の Spur で私自身が書いていたことである。まったくできてなかったなあ。

昨シーズンは悔しい、申し訳ない、そんなことをたくさん思った一年だった。まず、私に圧倒的に足りなかったのは、考えること。上達するためには何が必要で、そのためには何をすればいいのか。自らが理想とする滑りはどんなもので、どうしたらそれに近づけるのか。ただ人からアドバイスを受けてその通りに滑るのではなく、自分で考えることが全くできていなかった。皆外足軽いっていうけど、じゃあ、どうすればいいの？って同期にあたったこともあった。自分で考えろっつーの。

2月に入ってから、師匠に言われてやっとそれに気づいて(自分では結局気づけず)、考え出すようにはなれたと思う。でも、遅すぎたかな。それでも、考えて、毎日朝一車でスキーに行ったあの1か月は絶対に無駄ではなかったと思う。2月に学んだのは、考えることの大事さ、朝一に行き続けるだけの体力の重要性、そして自分のメンタルの弱さ(笑)

来シーズン、自分のスキーを形にするためにもこの3つは絶対に忘れてはいけないと思うし、それが出来れば昨シーズンのことを、あつてよかったと心から思えるようになる気がする。他にも技術的な反省はあるけど、それは技術論で。

今年は、執行部である。自分のことだけを考えていけばよかったという去年とは違い、部のこと、総合優勝のこと、いろいろ考えていかなければいけない。個人目標には掲げなかったけど、エレの男女総合優勝はぜひとももう一度果たしたい。そういう中で少しでもいい結果を出すために、去年思った以上に考えて考えてスキーをしなければいけないなあ、と思う。そうして自分が伸びていければ、結果として、エレの総合優勝にも近づけるんじゃないかな。

あと、今年は、弟子を持つことになる。自分の弟子が、私の弟子だから・・・って言われないように、ちゃんと伸ばしてあげたい。けんじさん、くまさん、ぶんごさん、私ともう師匠ですよ(笑)1年・2年で私の師匠だった先輩たちのように、教えられるか不安ですが・・・、全力で頑張っていきます！

ということで、今年のキーワードは全力と考える、かな。冬は学部も忙しくなるから、いけるときは全力でいって、考えて効率のいい練習をしないと実力は伸ばせないと思う。今年はこのキーワードで頑張っていこう。

<2年目>

SPUR

出雲屋 大地

目標：道予決勝 50 位以内、岩岳個人戦 5 位以内、団体優勝

昨年的一年間を振り返ってみると非常に多くのイベントがあり、とても充実した年だった気がする。というのもエレに入部する前、北大に入学する前はほとんど宅浪のような毎日が同じ、なんの変哲もない日々をただひたすら勉強に励んでいたからだ。だからエレに入ることができて本当によかったと思う。ここからはエレ一年目を振り返って深く印象に残っている行事を書いていく。

まずは新歓合宿について。この行事はエレに入部して一番最初の合宿であるため、かなりワクワクしていたのを覚えている。ただこの時はまだ受験明けで間もないため、著しく体力がなく、2日目の午後はリタイアしてしまった。本当はもっと滑りたかったのに、疲労に軍杯が上がってしまった。さらに不運なことに、この時のニセコはガスっており、楽しみにしていたピークアタックすらも中止となってしまった。まあ、体力的に無理だったけど……。それでも初めての合宿ということでとても楽しかった。

トレ合宿、グレステン合宿について。体力がなかったのできつかったが、少し運動する度に痩せていく気がしたのでモチベーションを保ってトレに励むことができた。

夏レクは・・・・・・・・・・忘れたことにしよう。

この他にもオフ時にはいろいろなことがあったがこらでシーズンに入ってからのことを書いていこうと思う。

シーズンに入る頃にはまず何か一つでも大きな目標を掲げようと思っていたので、以前高校時代に参加したことのあった「全日本スキー技術選手権大会北海道予選で、前回よりもいい成績をとる。」ということを目標に頑張った。この目標は低いんじゃないかと思うかもしれないけど、ブランクがあったので最低限高校の時のレベルには持っていこうと考え

ていた。で、実際にシーズンに入り練習が始まると、今までは比較的感覚的に滑っていたのでどうやって滑ればいいのかわからなかった。そこからかわからないが、昨シーズンは人から言われたことだけでなく、自分なりにトップ選手の滑りを観察し、自分の滑りを観察し、自分に足りないのは何か、どうすればイメージに近づけるかなど、今までの自分では想像できないほどのことを意識し考えながら練習していた。ときには今までのイメージをすべて白紙に戻し、一から構築し直すなど本当に意味があるのかわからないようなことも試したりしてみた。詳しいことは技術論の方で書くとして、本当に滑りに関しては迷いっばなしのシーズンであった。でもそのおかげでこうするためにはこういった練習が効果的だなどがわかってきたし、これまでの試行錯誤は非常にためになったと思う。

話は少し戻って目標についてだが、一応道予の結果は満足いくものではなかったけど、達成することはできた。そして道予が終わり次に立てた目標は岩岳個人戦で5位以内に入るというものだったが、この目標に関しては残念ながら達成することが出来なかった。というよりも岩岳を完全に舐めてかかっていたと思う。今まで出たことのある大会とは雰囲気はもちろん、雪質もジャッジも経験したことがないものだった。

来シーズンは昨シーズンの経験や反省を活かし、さらなる技術の向上、そして師匠として弟子の技術の向上にも努めていきたい。来シーズンの岩岳では絶対に目標を達成できるよう頑張っていく。

まとまりのない文章になってしまいましたがこれで終わろうと思います。

シュプール

今井 琴雅

シュプールを書くにあたって一年間を振り返ってみたのですが、文章を書くことが本当に苦手なので短くまとめようと思います。

1年はあっという間だったなと感じています。

スキーがしたくてこのサークルに入ったものの、中学、高校時代は運動なんて真面目にやったことなかったので、トレは想像していたよりもつらくてついていけませんでした。あまりにもできなくて、もはやトレになっているのかすら怪しかったし、このトレが一体スキーの何に役に立つのかわからなくて、正直入部当初は不安でしかありませんでした。

スキーシーズンに入って、滑走日数が少なかったのは後悔しています。

スキーがいやになったことも正直何度かありました。

けれど、岩岳や朝里など大きな大会を経験して、もっとうまくなりたいと思ったし、スキ

一が楽しいと思えるようになりました。

今年はおフシーズンのトレの大切さとか、トレとスキーの動きのつながりについてなんとなくわかってきたので、もっと精力的に頑張っていきたいです。

スキーについて、来シーズンはもっとスキーに行くことともっと考えて滑ること。そして楽しむことも忘れないようにしたいです。

最後に、師匠をはじめ、たくさんの先輩や同期には本当に迷惑かけてしまったと思うし、お世話になりました。ありがとうございました。

去年は楽しかったけれども、後悔とか悔しさを多く感じた一年だったので、今年は大充実した一年間を送れるように頑張りたいと思います。

そのためにも、オフのトレーニングをしっかりしていきたいと思います。

SPUR

大河内 裕典

目標：岩岳個人戦出場 樽予突破

正直、エレに入ることによって自分がここまでスキー漬けの日々を送ることになるなんて思いもしませんでした。最初の頃は、楽しくやりたい、ただそれだけで入部しました。てきとーに選んだってわけではないですよ。中学校は少年野球をやっていた惰性から、高校は野球以外の運動部、そうやって消去法で部活を選んできた僕には初めて積極的に選んだ部活です。

だからなのか、雰囲気の後押しされたのか、結局がつつりスキーをしていましたね。手探りでがむしゃら状態だったけれど、岩岳新人戦でポイントとって、朝里はあと一歩で準決勝、最後には一級もちゃっかり取得し、とりあえずシーズン前にぼんやりと目の前に浮かんでいた目標には達せたのではないかと思います。家族スキーの時めっちゃうまいと思っていた父親と、同じ一級を取ったんだと思うと何だか感慨深いものがあります。

そしてシーズンが終わった今、改めて振り返ると、「楽しく」なんてものは自分には合っていなかったのだと実感します。野球部は結局応援番長、陸上は目指す1分台に0.09s届かずじまい。心のどこかで「頑張ること」への未練が残っていたのだな、と気づいたのは岩岳の表彰台で涙を流す先輩や同期を見て、自分自身に寂しさを覚えた時です。嬉し涙も悔し涙も流せないままでは終われないなと思いました。涙を流すまではいなくて

も、自分の頑張りに胸張れるくらいはやってやろうと思います。

んでもってよく考えると、本気で部活とか頑張れるのって大学で最後です。
んでもってよく考えると（考えなくてもそうですが）僕がスキー漬けになれるのは今年で最後です。左遷されます。

あれっ・・・！Σ(□□;))
つまり今年やるしかないみたいですね。

今年はただ「楽しく」ではなく、「頑張った」その先の楽しさを見据えていきたいと思います。一回離れようとしたけど結局ここに帰ってきてしまったので、たとえ辛くてもここが帰着点なのだと思うのもう一年、後悔の無いよう全力を尽くしたいと思います。

Spur

清瀬 徹

目標：1級取得

朝里大会決勝進出

エレガントスキー部に入ろうと思ったきっかけは、北海道に来たことに意味を持たせたい、北海道でしかできないことをしたいという思いだった。子供のころから親に連れて行ってもらったおかげでスキーは好きだったから、説明会で平日も授業の後に滑りに行けるときいてスキーにしようと思った。基礎スキー部と迷ったりもしたけれど、説明会や新歓スキーの雰囲気でもエレガントスキー部に入部した。

シーズンを振り返ってみると反省点だらけだ。シーズンインしてからの僕は昼間スキーヤーだった。暇人と言われながら10コマしかいれなかった授業をほぼ3日に振り分け、全休と1限だけの日は明るいうちに滑りに行った。青空の下で滑るのはナイターよりも気持ちいいし、夜遅くならないので翌日に響かなくて楽だけれど、今はもっとナイターに行って先輩にみてもらえばよかったと思う。これが1つ目の反省点。公式練で習ったことを思い出しながら滑っても一人ではちゃんとできているかわからず、ただなんとなく滑るだけになってしまっていた。そして2つ目の反省点が家族と滑っていたころの「曲がりたい方向と逆の板を踏む」という意識から脱却できなかったこと。これが基本ではあるけれど、上のステップに行くには内足の使い方や切り替え等の意識が必要なのにそこを意識できなかった。3つ目は理論が無かったこと。教えてもらったことの意味やそれを取り入れて自分の

滑りをどうしたいかという考えが全然足りていなかった。4つ目はコブの練習不足。コブコブ選手権はチームの人に本当に申し訳なかった。

来シーズンは今シーズンの反省を踏まえて、しっかりと考えながらスキーに取り組んでいきたい。あと、滑りが女子っていわれないように。

SPUR

倉沢 洋佑

目標：岩岳個人戦出場

「勉強と両立させながらできればいいや」。総合理系で入学し、目標の学部に行くためにエレを二の次に考えていた。シーズン入って少し時間が経たないとスキーに対して、そしてエレに対してもあまりモチベーションが上がらなかった。1年目のシーズンの反省点である。今現在の視点から見ると、この時期の自分は勉強を優先している時点で両立とは言い難かったと思う。希望していた学部（学科？この際いいじゃあないか）には移行することが出来たが（）内にある通り満足できるものでなかったし、スキーに関しても中途半端な気持ちの状態がほかの部員と比べて長く、本格的にエンジンがかかったのは1月の中盤くらいであった。これはあまりにも遅すぎと自身でも感じており、大いに反省すべき点である。スキーに関しては、滑りに関してのイメージが固まらないままに滑ってしまうことがあった。頭の中で何を意識するかを決めるのはいいが、その先の自分の滑る「形」を軽んじてしまったことを反省しなければいけなかったと思う。

これを見たらあーら不思議、一気に気持ちが暗くなってしまいました。と、このような一年にならないように二年目はできるだけ悔いのない年にしたい。反省、公開の後に行動することが進歩につながるはずです。では具体的に何をするか。ここで具体的な課題を課したいと思います。そうすれば逃げられなくなりそうなので。

- ・インラインスケートを週に3回はやること（有効期限シーズンインまで）
- ・滑走日数90日

途中で投げ出すことがないよう、頑張りたいです。もう総合理系の呪縛から解放されたのですから。目標達成にも必要であるはずです。

（去年の）4月になり、大学生活が始まってどのサークルに入ろうか悩んでいた時期、なんとなくスキーがしたいという理由だけでエレの説明会に参加して「あ、いい」と感じたことが入部した理由でした。新歓期も終わり、トレが始まると受験期&受験が終わって半分引きこもっていたせいで運動という二文字が脳内辞書から消えた僕の肉体はもう絶叫モノでした。最初のトレで翌日自転車がこげなくなるほどに。それでもじきに運動に慣れて

きてそこまでつらくなくなったのが6月あたり。それ以降は体を動かすことが楽しくなってきました。11月に入りスキー場が開き、ようやくスキー部っぽくなって日曜日の公式練で師匠からスキーの技術を学び、その他の曜日は公式練の復習や先輩方に技術を学びました。このような生活は家族旅行スキーヤーだった僕には新鮮で刺激のある毎日でした。そしてついに藻岩山で公式練が行われるようになった頃、先輩方、同期のやる気に引っ張られたのか、一層練習に力が入るようになりました。練習の成果が実り、藻岩で初のスキー検定なるものを受け、2級に合格したときは本当にうれしかった。そしてあっという間に岩岳大会が始まり、結果は新人戦64位。何とかポイントを取ることが出来ましたが多くの同期が僕より上にいるのを見て更なる向上心が生まれました。岩岳が終わると次の目標は1級です。新歓期の何らかの飲み会で目標を発表したときに今シーズン中に1級を取ると言ったこともあり、結構燃えていました。この頃は学生会館の退去と新居の入居日が合わず、白水とともに羽田の家に居候させてもらいながらスキーをしていました。タダでスキーに行けるという最高の条件のもとで練習に励み、一回目の検定では落ちてしまいましたが二回目の検定では合格することが出来ました。羽田にはマジ感謝です。本当にありがとう。その後の春練では来シーズンにつながるスキー技術やコブ、そしてコブ、さらにコブを練習し、シーズンの終わり上昇する気温で感じつつ来年度のイメージを固めていきました。

と、まあこんな感じに1年を過ごしてきました。最後になりましたがオーンズや藻岩で滑りを教えてくださった先輩方、共に技術を高めあった同期、そして何よりも師匠の金田さん、ありがとうございました。

清瀬、トークは兄弟弟子の共通の課題だから一緒に頑張ろうね。

Spur

栗田 大樹

エレガントスキー部に入部してからの一年間を振り返りたいと思う。僕がエレガントスキー部に入ったきっかけは、せっかく北海道に来たんだからスキーやってみたくらいという単純なものだった。オフシーズンのトレはとくに問題なくついていくことができたが、いざシーズンに入ってみると、周りの同期はスキーの上手いやつばかりで、スキー完全初心者の自分との間にはかなりの実力差を感じた。シーズン当初は死なないように滑るのに精いっぱい、正直スキーを楽しむことができなかった。いつまでたっても進歩しない僕を懸命に教えてくださった師匠の西川さんや先輩方には本当に感謝している。岩岳直前になっても依然として周りとの実力差は埋められず、内心焦っていた。岩岳本番はなんと二連覇とい

うすばらしい成績だったが、自分はエレガントスキー部に何一つ貢献することができなかった。総括はもはやトラウマである。今まで必死に自分のために指導して下さった師匠や先輩方に対して申し訳ない気持ちでいっぱいだった。だがその一方で、自分のスキーの実力の拙さを再認識し、もっとスキーがうまくなりたいと強く思うようになった。しかし岩岳終了後も、こぶこぶ選手権や朝里大会などの行事ではいずれも結果を残すことはできなかった。シーズン中に一級を取るという目標も達成することができず、今シーズンは後悔ばかりがのこってしまったように思う。

来年から函館に行ってしまう自分にとって、スキーを本気で頑張ることができるのは今年がラストだと考えている。今シーズンでやり残したことが多かった分、来シーズンは何としてでも自分の得心のいく結果を出したい。そのために、その時自分ができる精いっぱいのことをやっていこうと決めた。オフシーズンはトレのない日にも自主的に毎日筋トレ、スタビラ、ランニング、インラインを積極的に行っていきたい。また、ただトレーニングを行うだけでなくスキーの動作との関連性を意識し、よりトレの効果をスキーに還元できるようにしたい。去年はスキーの経験がなかったため何も考えずにトレを行ってしまったが、今年はシーズンの経験を活かし、自分の動きを分析しながらトレを行っていきたいと考えている。また今年自分のインラインを買ったので、それが無駄にならないように授業後わずかな時間でも毎日インラインの練習を行うつもりである。自分の目標とする長い軸の出た滑りのシルエットをインラインの練習でだせるように頑張りたい。現状まだ内足に体が残った状態でしか滑れないので、外足にしっかり荷重する感覚を養っていきたい。

そして自分には圧倒的にスキーの知識が足りていない。二年目になった以上、誰かにアドバイスができるような知識量が必要である。あんまり見たくない自分の過去の滑りの映像とにらめっこして自分の滑りをもっと研究していく必要もある。これからは積極的にスキーの研究をしていきたい。

来シーズンに入ったら、まず最初に達成しなくてはならないのが一級の取得である。そのためにもこぶの技術を磨かなくてはならない。こぶこぶ選手権での悪夢を振り切るためにも、積極的にこぶにはいっていききたい。大回り小回りでは、左右差をなくし、外腰の遅れ、両方の板への荷重など、今シーズンで治すことができなかったことができるようになるのが目標である。大回りはシルエットを良くし、小回りでは暴走しないように、しっかり弧をえがいてターンできるようにしたい。

目標：岩岳個人戦 100位以内

一級取得

札予突破

SPUR

小林 永一

エレに入って1年がたちました。もはや「なぜエレに入ったか」というのははっきりとは思い出せませんが、もともとあまり積極性のない自分が、ただひとつ参加した新歓がエレの新歓スキーでした。そして気づけば入部者決定ミーティングの日で、「じゃあ、スキーするか」なんて考えていた気がします。

本当に、自分にとっては実りある1年でした。しかし同時に、もっと実りのあるものにできたという後悔を、今になって感じています。なので、まずは来年も同じ後悔をしないため、反省からしていきたいと思います。

第一に、オフシーズンのトレーニング。どのトレーニングにおいても「どうスキーにつながるか」の意識が足りませんでした。スキーでの動きについてまだあまり詳しくなかったとはいえ、自ら学びにいく姿勢が欠けていたように思います。

第二に、シーズン初期の滑走日数が少なかったこと。これは本当に、今年の12月くらいの自分を全力で叱りたいほどに後悔しています。家庭的な事情も少しあったのですが、それを抜きにしても、行かなさすぎました。過去の話に「もし」はありませんが、もし、自分があの時期に3日でも多く滑っていたら、3日でさえ、もっと技術的な向上が望めたと考えています。

第三に、新しいことを求めすぎていたこと。新しいことに挑戦するのは悪いことではなかったと思います。しかし、その前にやっていたことを「できた」と勘違いしたり、中途半端な状態で投げ出したりして挑戦しているのでは意味がありませんでした。1月あたりは、自分の気持ちいい滑りしかせず、基礎練、低速練をおろそかにしていた面があったと思います。そのおかげで、岩岳前になって、あれこれ悩んでいた気がします。

以上の反省から、今年度、そして来シーズンの目標を挙げたいと思います。まず、オフシーズンのトレーニングについて、ひとつひとつスキーをしっかりと意識して行うこと。1シーズンを終えて、今だからこそわかることもあれば、自分の考えていたものと違っていることもあります。それらをどう乗り越えていくかに、良いシーズンのひとつは懸っていると思います。

次に、とにかくスキーに行くこと。そして、積極的に教わりに行くこと。シーズンを通して気が付いたのですが、自分が悩んでいる部分とはまったく別のところに、その解決策があったりします。しかもそれはとても簡単なことだったりするので、そうしたことに気づくには何度も滑り、アドバイスをどんどんもらったり自分の滑りを研究したりするしかないと思います。

そして、確実にひとつずつステップアップしていくこと。行き詰ったら、基礎に立ち返ること。もちろん、札予や樽予はシーズンに入ってわりとすぐなので余裕があるとはいえ

ませんが、それでも、後の技術向上につながるような滑りを見つけていきたいです。

遅くなりましたが、大きな目標を決めておきたいと思います。

「道予出場、個人戦選考会通過」

最後に、昨年度のよかったことについて。自分にとっては、目標であった 1 級をとれたことが大きかったように思います。自分の練習時間を割いて教えてくださった先輩方に心から感謝したいです。特に、シーズン始まってもなかなかスキーに行けなかったり、リフトでほとんどしゃべらなかったり、岩岳でポイント取れなかったりとさんざんな弟子だったと思いますが、最後まで丁寧に、わかりやすく、親身になって教えてくださった師匠には、感謝してもしきれません。シーズン中に 1 級をとれたのは、そうした皆さんのご指導があったからだと思います。ありがとうございました。

それと、エレの公式な活動にほとんど休まず参加できたことも大きかったです。もともと身体が丈夫なことくらいしか取り柄がないので、今年度も体調管理をしっかりしていきたいです。欲を言うなら、もう少しトーク力をなんとかかしたいです。

それでは、以上を SPUR とさせていただきます。

Spur

齋藤 樹理

目標：1 級をとる 岩岳個人戦 50 位以内 団体戦出場

実を言えば入学当初、私はスキーに興味がありませんでした。ただ大学生になって新天地に来たんだから何か新しいことをはじめたい！とは思っていました。

そんな時、クラスが同じだった島村にエレの新歓に誘われたのがきっかけです。今まで全くスキー経験がなく、ブーツすらはけなかったのに、たった 1 日で滑れるようになったことに感動し、とにかく楽しかった。リフトまでピークアタックしたり、とにかく転びまくったり、先輩に突っ込んだりといろいろ先輩にはご迷惑をおかけしましたが…あんみつさん、あのときはごめんなさい。

そしてその後の説明会で PV を見て、滑りのかっこよさにやられてしまいました。私もこんな風に滑ってみたい、それならエレに入るしかないでしょと。

そんなこんなで入ったエレ、今まで運動部といえるような部活に入ってこなかった私に

はトレがきつい、きつい。正直シーズン入るまではスキー部だということを忘れていました。

シーズンインしてからは、怒涛の毎日。記念すべき一回目の公式練の直滑降から始まって、最初は恐怖との戦いでした。オーズズの正面バーン、国際のゴンドラ降りてすぐのところ…しかし師匠をはじめ、多くの先輩に教えてもらいながら1本滑るたびに、前よりうまく滑れていることがわかり、また、上手くなったねと褒めてもらえるのがうれしく頑張ろうと思えました。そうやって滑っているうちに恐怖よりも楽しさが勝つようになり、どんどんスキーに行くのが楽しくなっていました。

そして迎えた岩岳。始まる前緊張でがちがちになっていましたが、師匠の言葉で緊張がほぐれ、あとは運が味方をしてくれたのか、総括で **255** という奇跡的な点数が出ました。そして総合は **16** 位。エレ女子の総合順位のために貢献でき、エレ1年女子で **300** 点取るという目標達成の力になれたのはよかったです。

朝里大会でも新人戦から個人戦準決勝に出場できましたが、2つの大会で課題も多く見つけました。

とにかくコブ！そして小回り！来シーズン中にこの2つをほかの人に見られても恥ずかしくないレベルまで上げたいと思います。そのためにも、昨シーズンのようにただ楽しく滑っているだけではなく、スキーの知識を身につけていきたいです。

北海道に来る前はまったくスキーに興味なかった私がスキーにハマり、ここまで滑れるようになったのは、先輩方、コーチの方々のおかげです。本当にありがとうございました。これからもよろしくお願いします。

特に師匠の西川さんには、非公式練をやっていただいたり、大会前に精神面のサポートまでして下さったりと本当にお世話になりました。結局、最後の公式練まで弟子は **2** 人とも転んでいる茶番コンビでしたね…笑

最後に。西川さん！去年の目標、達成できていますよ！弟子はスキーを楽しんでいます！

Spur

繁戸 伸宏



目標 岩岳個人戦 100 位以内

エレガントスキー部に入った経緯から、オフシーズン、そしてシーズンと、一年を振り返ってみたいと思う。

そもそも北海道に来ることができた理由が、幸運(?)にも後期試験で復活合格できたことである。前期試験で北大に落ちた時、もはや望みは消えたと思っていた。何事も実際やらないと分からないものである。この地に来たからには、ここでしかできないこと、そうウィンタースポーツをやろうと決めていた。そこで決まったのが、幼いころから家族で体験してきたスキーである。

一年間ろくに運動をしていなかった自分には、最初一か月のオフトレが大変に辛かった。たしか初回では手つなぎオニをしたと思うが、それが自身を崩壊させた。翌朝全身筋肉痛でしゃがむことができなくなったのは良い思い出である。インラインも足はブルブル、おっかなびっくりであった。トレ合宿を経る頃には大分ましになった。

ひと月の間山にいた夏休み、帰札し始まった後期もあつという間に過ぎ、十一月には早くもシーズンイン。いよいよ始まったシーズンであったが、ここから大きな過ちを犯し、気持ちが後退していった。この頃始まったバイトでスキーに行けなくなったのだ。オーンズで会った先輩・同期には、「久しぶりだね!」「もっとスキー来いよー」と言われた。行きたいのに行けない状況を作った自分が情けなく、そんなことを言われるのが悔しかった。しかし、「よし、もっと沢山スキーに来てやる」とはならなかった。逆にストレスが溜まりやすく、プレッシャーに弱い自分はどんどん気力が失せていった。リフトに乗った時も、次はどのように滑ったらいいか、どうしたら改善できるかも考えず、ただぼーっとしていたことは頻繁、練習を通して同期と一言も話さなかった日もあった気がする。自分が苦手としていた小回りは改善しようとはせず、比較的得意な大回りばかり練習し、現実逃避していた。

結局、岩岳の新人総括では大転倒。朝里では総じて低めの点数。大会では日頃の練習への姿勢による結果が如実に現れた。一級取得も失敗し、来シーズンへ持越しである。

と、懺悔ばかり書いていても仕方ない。逆に来シーズンへの課題は山ほど決まった。まず、もっと前向き志向になること!失敗は誰にでもあるし、過ぎたことはもうそれまで。ずっと影響を引きずっているのはダメ人間の証。次に、困難から逃げず、積極的になること!逃げてばかりでは、いつまでたっても上手くはならない。再来シーズンには教える立場に回る。そんな後ろ向きな姿勢は、教える側には決して許されない。そして最後に、同期に先を越されたからには、絶対追い抜き返してやる。そんな気持ちを念頭に置き、また先シーズンから得た多くの教訓を糧として来シーズンを過ごし、岩岳で結果に反映させていきたい。

2014年5月25日

～目的は生を実感させる～

島村 航平

■目標

個人戦選考会 5位以内
道大会決勝進出
フィッシャーカップ 5位以内
岩岳大会個人戦 20位以内
朝里大会表彰
テクニカル4種目オール加点合格

■Spur

叩き合いでは、【目的】【目標】【過程】というキーワードが大きなテーマになったと思う。今回は、シュプールということであるが、この言葉をやはりテーマにしたい。

「目的を持った人間は強い」

これがこの一年、いや二十年生きていて確信していることであり、私の人生を最も簡潔に表した言葉であると思う。

人間関係にしろ競争にしろ何にしろ、私を奮い立たせてきたのは、私の人生を動かしてきたのは、常にその【異常なまでの目的意識】であった。

だからであろうか。私の20年の系譜の中で、やはりまず思い出すのは【目的】に関することなのである。

要領が悪いせいか、私は人より出来ることが少ない。どうやら親も同じなようで、昔から『人の三倍努力しなさい。そうすれば人より上にいけるから』とよく言われたものだ。

しかし困ったことに、加えて私は怠け者なので、まあまず人の足を引っ張る。

『ならさっきの【目的】とやらを持てばいいじゃないか』

と思うだろうが、そうは問屋が卸さない。そんな簡単に【目的】を持てたら、私は今ごろもっと恵まれた生活を送っていただろう。

私の云う【目的】とは、いわば

『自分の人生をそのために費やし、アイデンティティを賭け、持てる全てをぶつける』

ものなのである。それゆえ、【目的】を持てたらこっちのもので、必然的に努力を惜しまなくなるし、疲れもなくなる。ハイになる、というやつだろうか(笑)

この一シーズンの【目的】は、『岩岳新人戦表彰台』というものだった。

これはその通り私の今までの人生を賭けたものであった(というのは、私は小学生の頃から『北大でスキーをする』という夢(途中から目的に変わった)があり、中学で勉強し、それなりの高校に入り、高1で二級に落ちて愕然とし、スキーについて猛勉強し、受験勉強して、北大の受験に二度失敗し、浪人して、また一回失敗し、四度目の正直で北大に入った。ここまでの時間をかけてようやく当初の目的を達成したのである)。

二月の異常なまでの滑走時間は、【目的】の存在がそれを可能にしていたのだろう。疲れなど微塵も感じなかったのを覚えている。

そして来る三月六日。私は表彰台の上で号泣した。理由はもうお分かりだろう。あの涙と賞状は、私の今までの人生の結晶だった。あの場に立ったという事実そのものが、このシーズンを代弁していた。

結果は大事だ、と思う。岩岳も、表彰台に乗ると乗らないのとでは、それに対する印象は全く変わってしまうだろう。では結果が出なければダメなのか。その過程には意味はないというのか。

否である。

むしろ過程こそ大事なのであって、結果はその副産物の一つに過ぎない。得るものは全てその過程で得るのであるから。

しかし、勘違いしてはいけない。【過程】とは、【目的】があって初めて意味を成すものであって、目的がない過程など空虚だ。そこから得るものは何もない。また、結果を副産物だというのはすべて終わってからであって、初めから結果を最重要視しないものなど【目的】とは言わない。

私自身、結果を最重要視してやってきたからこそ、その過程で得たものはかけがえのないものばかりであるし、今シーズン何が一番楽しかったかと言われると、その過程-----競争なのである。好敵手の存在は本当に大きかった。兄弟弟子ということもあって、二人で表彰台に乗ろうという決意もした。時に教え合い、時に競い合う。それしか見えないほどに。追いつき、追い越すために、ただただ全力で己の技を磨く。本当に楽しかった。目的意識は何倍にも膨れ上がった。

最後となるが、【目標】という言葉がある。これは目的とは違う。【目的】は、ゴールがあってそれに進んでいくことを指していて、【目標】はどちらかというと、進んでいく先にゴールがあるという考え方だと、私は捉えている。目的よりも規模が小さく、その意味合いは弱い。下位互換といったところであろうか。

自慢に聞こえるかもしれないが、あえて言おう。私は結果を出した。ある意味で完結したのだ。それも、漫画や小説かと思うほどのドラマ性を以て。

しかるに、二月などに比べると、モチベーションはだいぶ下がってしまっている。不本意ではあるが…

最初に【目的】ではなく【目標】と書いたのも、現時点でそれらが自分の中で『岩岳新人戦表彰台』ほどの存在ではないからだ。

幸いなことに、私のスキーに対する考え方というか楽しみ方は、この種の目標目的を達成するのに最適である(上手くなるのが楽しい)が、特に期限があるわけではなく、それだけでは【目標】を【目的】にはできない。

その意味で、今のままではその達成は難しいだろう。

来シーズンが始まるまでに、私を奮い立たせるような何かがほしい。ただ、今年は後輩がいるので、教えるなどといった、違う楽しみ方を模索していくという手もあるが、やはり、今シーズンのようにしのぎを削る相手が出てきて欲しい。時にはアドバイスし合ったり、時にはそいつしか見えなくなるような熱い争いをまたしたい。今シーズンは好敵手の存在があったからこそ成立したのだ、と、今さらながら実感するのである。

今はまだ先が見えない来シーズンだが、どういう形にせよ、スキーに対する情熱だけは持ち続けていきたい。

1年間を振り返って

白水 優一郎

目標：1級を取る

福岡から北海道にきて、一番したいことはスキーでした。今までは旅行で年に一回スキーができればいいほうで、スキーを思う存分できたことはありません。もともとの実力と

しては、若干パラレルになるときもあるというレベルで北海道の一般人以下でした。エレガントスキー部のPVを見てこんなにうまく滑れるようになりたいと思い、この部活に入りました。右も左もわからない状態で、1級というものがどのレベルかもわからずとにかく先輩方が言っている1級というものを目標に頑張ろうと思いました。

冬に入って、同期の滑りを見てみると初心者もいましたが、明らかにうまかったです。まず、足を閉じて滑っていることに驚きました。自分は足を閉じることができませんでした。同期に驚きつつも、先輩に教えてもらった一番基礎の「荷重」というもの。これもまた意味不明でした。よくわからないまま岩岳も近づいてきてしまい、どうしようもなくなってしまいました。それまでの間、何回も悩んでスキーがよくわからない状態に。悩みながら過ごしている機関が多々ありました。今までしてきたことを忘れて一からやり直して、また考えて、の繰り返しでした。みんながうまくなっていく中、自分一人だけ取り残されているようでとても悔しかったです。結局岩岳では結果を残すことができませんでした。そのあともなかなかうまくいかず、浅里もひどい滑りをしてしまいました。

そのあとやっと「外足を踏む」ということのやり方がわかり始めてきました。そんな中、同期が1級を受けると言い出しました。正直、受かる気もなく、どんなものか知りたい気持ちで受けました。そしたら受かってしまいました。先輩方にもとても驚かれました。しかし、そのあと一緒に滑った時にうまくなっているといわれてうれしかったです。春にはなってしまうましたが、少しくまくなれたような気がしました。若干ですが、大回りの時には滑っているときも踏めている、踏めてないがわかるようになりました。そのおかげでスキーが一段楽しくなりました。春雪でもスキーを楽しめて、春雪で滑りやすいポジションもわかるようになりました。

シーズン最終盤の新歓スキーのピークアタックでも滑りを楽しみながら滑ることができました。とても楽しかったです。来年はこの急斜面をこの時よりももっとかっこよく滑れるようになりたいです。

来年シーズンの目標としては、二年生になるので岩岳に出られる実力を付けたいです。正直、去年度の先輩方、同期の実力を見るととても厳しい状況です。しかし、ギリギリでもいいのでどうにか上位15人に入り込めるように頑張りたいです。才能がないのでどこまでいけるかわからないのですが、今年同様、しっかり努力していきたいです。オフシーズンからのイメージトレーニングも欠かさずやっていきたいです。

Spur

鈴木 智子

目標：岩岳 2 ケタ 朝里決勝進出

今思い出せば、スキーをやりたいという思いがあったものの、エレガントスキー部に入ることはその充実さとは裏腹にすごく覚悟がいる気がして、決定ミーティングの 5 分前まで迷っていた。でも、入部してからはそんなこと全く忘れるくらいトレもスキーも楽しくて、いろんな経験ができて、本当にいい仲間や多くの先輩方、そしてスキーというエキサイティングな種目に出会えたと思っている。その意味ではじめにこの 1 年間私を成長させてくれた人たちに感謝を述べたいです。特にこんなスキーが下手な私と辛抱強く何時間も滑って教えてくれた先輩方、同期、ありがとうございます。

シーズンを振り返ると、特に前半は辛かった！後傾との戦いから始まって、板をコントロールできないからオーズの前バーンを一回降りるのも一苦勞。加島さんに「5 回以上転ばないで降りてこようね。」なんて言われてました。メイン合宿では初心者班であるにもかかわらず、1 人ついていけなくてはぐれちゃったりと自分の下手さにびっくり、繰り返すドジさに疲れる日々でした。

でも岩岳への練習や大会を通して、微弱ながらも自分の成長が分かるようになってほんと嬉しかった。散々悩んだカービングができるようになった時のドキドキ、大会本番で怖がらないで滑走できたときの気持ちよさ（ゴール手前で止まっちゃったけど・・・）、この時の純粋な気持ちを忘れずに来シーズンも取り組んでいけば結果は出ると思う。ピークアタック後の斜面も楽しんで滑れたから、ブルーバーンも、もう大丈夫。反省としては挙げられるのは滑りの完成が遅くて大会が不完全燃焼に終わってしまったこと、春に怪我をしてコブ練があまりできなかったこと、技術的な知識が乏しかったこと。だから、オフシーズンは怪我をしないような体作りと知識の習得、そしてシーズンはコブに積極的に入ることを意識づけていきたい。

後は人としての成長。自分のこともあるのに、個人選考会の前日まで滑りを見てくれた師匠には本当に感謝しています。私もそれくらい余裕が持てる人になりたいと思いました。今年は昨年よりも結果にこだわることになると思うけど、競技をするうえで頑張りつつもスキーを、大会を楽しむことを忘れずに滑っていきたい。

S P U R

月井 一輝

せっかく北海道に来たからにはスキーをやろうと思い、エレに入部してから、一年が経った。一年間を振り返ると、とりあえず楽しい一年間だった。

オフシーズンでは、外足ジャンプとかインラインとか、いまいちスキーとのつながりがわからないままのトレだったが、無遅刻無欠席だったので、それなりに頑張ったと思う。暇な夏休みも、先輩方にいろいろ連れていかれたので、充実した夏休みだった。

シーズン中では、今までにないほどスキーに行った。いやはやいやはや。公式練をはじめ、先輩方にたくさん教えていただけたのは本当にありがたかった。スキーをやる上でこんないい環境はないと思った。師匠のくまさんには、公式練以外でもたくさん教えていただいたので、本当に感謝している。毎週日曜日の公式練は、やあやあで始まり、リフトでは遠藤さんがやばいんですよという話を聞いて、とても楽しかった。

大会では、自分のメンタルの弱さが出てしまった。スタート前は、いつもドキドキしてしまい、滑りがガチガチになってしまった。岩岳では、21位というまあまあな結果だったが、自分の滑りを出せなかったのは悔しかった。原因は、メンタルの弱さもあるだろうが、一番は消化不良にあると思う。次から次へとアドバイスをもらってしまったせいで、すべて中途半端なまま大会を迎えてしまい、緊張しすぎてせっかくなおしたところも元に戻ってしまったのだと思う。だから、来シーズンは、フリーの時間を多くとり、ひとつひとつ消化していきたいと思う。来シーズンは、大会でいつも通り滑れるようになりたい。

来シーズンの目標は、①大会でいつも通り滑る、②内倒腰遅れ脱却、③(コブ)後傾発射脱却である。①はさっき言った通り。②は、腰遅れはシーズン中ずっと言われていたのだが、なおらなかった。おまけに、シーズン終盤になって、内倒するようになってしまった。腰遅れはなかなかなおらないと言われているので、オフトレから、内足ジャンプなどで意識していきたい。③は、コブでコケて膝をあごに思いっきりぶつけてから、コブに恐怖心を抱くようになってしまい、それから後傾になってしまった。そのせいで、コブを出るたびに板が発射してしまい、コントロールできなくなってしまった。コブは入らないとうまくならないので、来シーズンは、一日1本はコブに入ろうと思う。

来シーズンの目標

岩岳で 50 位以内をとる

朝里のコブを気持ちよく滑る

昨シーズンの反省は技術の面でもありますし、取り組み方の面でもあります。

取り組み方の面は、シーズン初期、あまりスキーに積極的でなかった点を反省しています。言われたからやる、言われないためにやる、という受け身の姿勢でスキーに取り組んでいたと思います。半年間滑ってみて感じたのは、スキーって楽しいなということです。シーズン初期に受け身な姿勢で取り組んでいたところに比べ、シーズン後半に積極的に聞いて、トライアンドエラーを繰り返し、少し上達をして、という頃はとてもスキーが楽しかったです。スキーに行くことも楽しみになりました。来シーズンは上達のためにも、スキーに積極的に取り組み、楽しみたいと思います。技術面の反省は…技術論で書きたいと思います。

スキーの楽しさも技術的な難しさも昨シーズンで感じることができました。きっとまだまだ奥は深いので、来シーズンは中々上達せず、何度挑戦してもうまうまかなくてむしろくしゃしてしまうこともあるかもしれませんが、そういうときこそ滑ることを楽しんで、スキーを投げ出さずに続けていきたいと思います。

目標ですが、岩岳でスーシーをとることが目標です。

この目標を掲げるに恥じない努力をしようと思います。

もう一つはコブです。

昨シーズンの朝里では運よくグリーンコブを滑るチャンスがもらえましたが、降りるのが精一杯でした。来シーズンはコブを得意種目にできるくらい滑り込み、朝里に挑みたいです。

昨シーズンは色んな方にお世話になりました。特に師匠は、とても丁寧におしえてくださり、上達させてもらい、とても感謝しています。ありがとうございました。来シーズンも教えを乞いに伺うことがあると思いますが、その時はよろしくお願いします。

Spur

布川 敦士

馬屋を飛び出してから、早いもので1年以上が経ちました。まずは当時2年生ながら自分を受け入れてくれた先輩方、及び同期に感謝します。

さて、思うままに書くと内容のない文章が出来上がるため早速本題に入ります。結論から言うと、今シーズンは納得がいかないことの連続でした。

特に選考会直前の腰痛は最たるもので… 新人戦選考会・フィーチャーカップと貴重な実践の場を2つ失い、更にスタート順が重要（らしい）な岩岳新人戦では後ろから4人目という素敵なゼッケンをもらいました。

結果は、、、実力不足もあり、岩岳はポイントは取れましたが目標には遥か及ばず。挽回を図った朝里大会では新人戦をラッキーで通過した後、本選では全く歯が立たずお客さん状態と悔しい、空しい思いをしました。

今思えば、あの怪我は体を休めて柔軟性を上げることには大きく貢献していました。しかしシーズン途中で2週間も離脱した影響は間違いなく大きかったです。

そんなことを踏まえて、来シーズンまでの目標と来シーズン通しての目標を大まかに考えます。

まずシーズンまでは、怪我をしにくい、疲れにくい体を作ること。昨年ほどは時間を確保できませんがスタビラ、スローペースのランニングを中心にコンディションを作りたいです。

そしてシーズン通してでは岩岳個人戦、技術選道予選出場をメインに、毎日少しずつ進歩していくこと。1年通して本当にいろいろなことが学べました。現在のオフトレではどうやったらスキーでの体の使い方とリンクできるか、どうすれば左右差を減らせるかを試行錯誤していますが、ゲレンデの内外で今まで学んだことを中心に、新しい知識や技術、守るべき基本の両方を意識して日々何かしらに挑戦したいです。

以上、なんだかんだ長くなってしまいましたが終わらせていただきます。今年は何人ELANを履くのかなあ…

目標：技術選地区予選突破、岩岳大会個人戦出場枠獲得、楽しむ

エレに入ってあっという間に1年が経った。北大入学当初、スキー部に入ろうなどとは微塵も考えていなかったのだが、「エレガントスキー部」という名前を見てなぜか「あ、ここに入ろう」と思ったのがつい昨日の・・・いや、1年前のことだ。

なんとなくの動機で入った僕でもエレを続けることのできる理由はただ一つ、楽しいからである。もちろん、スキーを上手くなろうという気持ちもあるのだが、活動の原動力になっているのはやはり、楽しいからである。今後も楽しく活動していければ、というのが一番の思いである。

ただ楽しむためにエレに入ったわけだが、公式練などを通してスキーの知識が増えていくと共に、上達したいという気持ちは強くなっていった。しかし、僕の家とスキー場との埋めることのできない果てしない道のりが僕をスキー場から遠ざけていったのは、紛れもない事実なのである。ONZEまで往復5時間とか、ちょっとした旅行ですよ。そこで、僕は長い移動時間を有効活用するために、実際の練習ではなくイメトレで上手くなろうと考えた。イメトレしかないと考え、イメトレで考える。ただ考えることしかしなかった気がする。パスカルが「人間とは考える葦である」と言ったのは全くもってその通りだ。しかし、スキー知識の乏しい僕は師匠から得た（師匠の豊富なデータバンクから辛うじて理解することのできた）技術・練習法を繰り返し頭の中で再現することしかできなかった。これは要反省すべき点だ。僕が足りない頭で考えに考えた末にたどり着いたスキー技術は、技術論までとっておこうと思う。しかし、来シーズンは自ら情報を得て技術を向上させるよう努めねばならない。

ところで、僕はこれまで採点競技をやったことがなかった。正直なところ、基礎スキーというものはよく分からず入部したし、今でもよく分からない。分からないままシーズンが終わり、恐らくずっと分からないまま引退まで続けるのだろう。それでもまあいいかと思っているのはここだけの秘密だが。

エレに入って得たものは数知れない。シーズンを通して出来の悪い弟子に根気よくスキーのいろはを教えてくれた師匠にはとても感謝しているし、兄弟弟子はよい目標となってくれたと思う。ありがとうございました。しかしまあ、「昨シーズンの友は来シーズンの敵」という言葉があるように、来シーズンはぎゃふんと言わせてみたいものだ。先輩や同期とのつながりがやはり一番大きな収穫だったと思う。

また、失ったものも多い。大学で初めてアルバイトをしてお金の価値を知り、エレでお金を失い、さらなる価値を再認識した。東の最果てに住んでいる僕は総合理系、実家生、アルバイトという三重苦に耐えながら過ごしていたのである。今年からは去年までの経験

を活かして効率良く全てのことを運びたいと思う。そうすればきっと他の人よりも少ない練習時間でも互角以上に戦えるはずだ。

色々書いてはみたが、とりあえずまた1年間楽しくやっていこうかな。

SPUR

船水 風花

目標 岩岳個人戦表彰台、道予選決勝進出

SPUR を書くにあたり、何から手をつけてよいか分からず、過去の SPUR を読ませていただいたところ、現執行部の代を筆頭に、目標の達成率の高さに驚きました。生半可な気持ちで目標を決めるわけにはいかない、目標を公にするからには実現可能性のあるものにした、けれどどんなに難しそうな目標でも、口に出すことで少しは近づけるのではない、そんな葛藤をしながら、目標の欄を空白にしたまま、書き始めています。

私がエレに入った理由、諸々の憶測があるかと思いますが、そこにスキー部のビラがあったから、新歓スキーがリーズナブルだったから、行ってみたら楽しかったから、また本気でスキーがしたくなったから、以上です。なので、わたしの中では、入部当初も今も、エレとスキーと楽しさの 3 つは、三角形の各頂点に位置して、お互いに矢印を張り合っています。これは今後も変えたくない関係性です。もちろん、いい加減休ませてくれよう疲れたよう、という時期もありました。今思い返して軽く 3 回はあります。でも、岩岳個人戦の決選で順位を落としてしまった時にはこっそり悔し泣きしたし、団体が終わった時にはもうなんで泣いてるのか分からなくなるくらい号泣したし、シーズン終わりにはだんだんと春らしくなるスキー場がさみしくて、スキーがしたくてたまらないし、1 週間もエレのみんなに会わないとホームシックみたくなるので、やっぱりわたしは、エレ、スキー、楽しい、の三角形が好きなんだな、という結論に至りました。

来シーズンの目標は、結局、デカイこと言ってみよう精神で、デカイこと書いてみました。今年の岩岳は、個人戦にも団体戦 A チにも出させていただいて、本当にたくさんの経験ができました。そのおかげで、次の岩岳で上位者と同じ土俵で戦うことができます。この場をお借りして、本当にありがとうございました。個人戦表彰台、客観的に見て、今のままでは厳しいと思います。今年の、とにかくテンションを上げて、恐怖心が芽生えたときには、師匠弟子 3 人で「気合いだ！」と叫んで突進する、そんな野蛮な心はこれからも忘れずに、もっと素直に、言われたことをもっと大胆に、変えていくシーズンにしたいで

す。1本滑りを変えたら感覚がおかしくなってしまうんじゃないか、こんな恐れを抱いたまま、恐る恐るちょいちょいと探るスキーとはさよならします。自分で高い目標をたてたからこそ、ドドーンとやってみなくちゃいけないと思っています。迫力のある、男勝りな滑りがしたい。それだけです。

道大会に関しては、初めてトップ選手の本気の滑りだけでなく、練習や直前の調整などを生で見て、滑りの新しいイメージがつかめた機会でした。その経験を次はもっと身近で、肌で感じたいです。決勝まであと7点だった悔しさは今もよく覚えています。決勝で恥じない滑りを身に着けて、あそこでまた滑りたいです。

具体的には、まずどの滑りに関してもスタンスを狭く、上体がかぶらないように。ロングは、切り替えで抜重しない、もっと下へ。ショートは、深く回す、多様なバーンに対応する力をつける。コブは、つぶれっぱなしにならない、スピード出して攻める。少なくとも今ここに書いたことは年内にクリアします。

最後に、やたらテンションに高い弟子を見捨てずにいてくれた丸岡師匠をはじめとした先輩方、同じ立場でサポートができない時にも笑顔で接してくれた同期、ありがとうございました。これからもよろしくお願いします。

シュプール

堀 菜月



目標：一級取得、岩岳個人戦二桁

新歓合宿二日目の昼で筋肉が悲鳴をあげリタイアするという、エレ史上最弱の体力で入った私もなんとか2年目になり、無事シュプールを書くことができるようになりました。小中高帰宅部で運動が苦手だった私がよくここまでこれたなって自分でもびっくりしています。今思えば入った理由は完全に大学入学したての昂揚感のせいです。実際トレが始まったら、やっぱりすごく大変で、でも少しづつできるようになってるのが嬉しくて不思議と辞めようという気持ちは起こりませんでした。周りから「トレついていけるのかな？辞めちゃうんじゃないかな？」って思われてるのはひしひしと感じていましたが、それよりも頑張らなきゃと思いました。負けず嫌いな性格なわけではないので、普通にエレにいるのが楽しかったっていうのが一番の理由ですけど。

シーズンに入ってから、とりあえず滑れば良いと思ってオーズに通っていました。

車中も楽しかったですし。平行になるまでが大変でしたが、できるようになったときは本当に嬉しかったです。岩岳でポイントとれて師匠にすごく喜んでもらえたり、二級取れたり、私でもやればできるんだと教えてくれたエレには本当に感謝です。オフトレがなかったら絶対ここまで成長できなかったと思います。また、スキーの楽しさと技術を教えてくれた師匠のあんみつさん並びに先輩方、同期のみんな、本当にありがとうございました。

2年目になって、技術面での目標はやっぱりまずポジションを直すこと。これに尽きます。そのためにはオフトレが大事。すごく大事。かかとをつけてしゃがめるようになる。筋肉もつける。最近トレをしながら自分の体が如何にスキーに向いていないか実感させられます。

そして次に考えて滑ること。一本一本大事に滑る。ちゃんと勉強する。

また、精神面が弱すぎるからできるだけ改善したいです。守りすぎてから、もっと攻めの姿勢を大事にします。

そして、具体的な目標はいろいろ書いてますが、やっぱり一番の目標はスキーを楽しむ気持ちを忘れないこと。甘えてるっていわれるかもしれないし、一年の時みたいに楽しいだけで滑ってはいけないと思うけど、私の目標はいつまでも「Enjoy Ski!」です。こぶ斜面でもしゃばしゃば春雪でもそう思えるようになれば、きつともっとうまくなれるはず！

SPUR

宮内 祥瑚



目標：年内1級取得、岩岳50位以内

エレガントスキー部に入ってもう1年がたちました。夏のトレはあっという間で、冬のスキー生活はさらにあっという間でした。私がスキー部に入ったきっかけは北海道だからスキーをやってみようかという軽い思いもありましたが、一番は新歓説明会での先輩方のPVに心を打たれたことでした。サークルの雰囲気も自分にあっていて、他のサークルとかなり迷った思い出があります。今思い返すとこのサークルに入ってよかったと心の底から感じています。

夏のトレは、最初のころはしんどい思いでいっぱいでしたが、だんだん慣れていき先輩についていけるほどに成長できたと思います。一つ一つのトレーニングがスキーでどのよ

うに生かされているのか知る努力をしてみました、やりきるのに必死で諦めました。とにかく、体力をつけようという思いでやりました。

初心者だった私はとにかく先輩の「1年の間は滑れば滑るほど上手くなるから」という魔法の言葉を信じて、必死にスキー場に行きました。やるからにはそれなりに上手くなって同期に負けないぞという思いでスキーをしていました。はい、負けず嫌いなんです。おそらくシーズンの滑走日数は学年上位だったと思います。スキーは毎回滑るときに自分が前回より成長していることを感じるができるスポーツだと勝手に思っていました、そんなことはなく・・・自分は本当に成長しているのかという不安とともに練習していました。先輩に言われたことが上手くできなくて、練習しても上手くできなくて、スキー行くの嫌だなど思う時期もありました。それでも、諦めずに練習することができたのは先輩が車を出してくださったり、熱心に教えていただいたり、頑張っている同期を見ていたからでした。同期や先輩には本当に感謝しています。ありがとうございます。

スキーをしていき大会が近くなっていくにつれて、ある思いが強くなっている自分に気がつきました。それは、お世話になった先輩方に恩返しをしたい、という思いでした。岩岳の新人戦の獲得ポイントなんて総合得点のほんの一部にしかないということは承知していました。それでもポイントをいっぱい獲得して少しでも優勝に貢献したいという思いでいっぱいでした。特に師匠には最後の大会でたくさん喜んでもらいたい！という気持ちで練習していました。

大会本番、総滑でこけてしまった点は悔いの残るものでしたが、なんとかポイントをとることもできて少しでも先輩方に恩返しできたのかなと感じています。よかったです。メッセージカードすごく力になりました。感動して泣いちゃったことは内緒です。

岩岳が終わって朝里が終わり、すっかりシーズンが終わった気持ちになってしまい、スキーもあんまり行かなくなりました。今シーズンに1級とりたいと口では言っていたものの行動には移せていませんでした。あまり行ってなかったのもあり、いつもの滑りを忘れ春雪を上手く滑れるようにもなれず、最後の最後に反省点を増やしてしまい情けないです。

来シーズンでは、苦手なナチュラルバーンでいつもの滑りができるように、綺麗なバーンだけ上手く滑れるようなスキーヤーにならないように練習していきたいです。最後に、一からスキーを教えていただいた先輩方、コーチの方々、そして師匠さやさん、本当にありがとうございました。これからもよろしくお願いします！

SPUR

森本 夏海

北大に入学し、そしてエレガントスキー部に入ってからあっという間に一年がたった。北海道に来たのだからスキーがしたい、という簡単な考えでエレに入った。それまで、スキーといえば家族旅行で少し行くくらいのもので、スキーの基本的なことは何も知らなかったが、マテリアルの選び方やターンの仕方など、先輩方から教えていただくことで知識を身に付けることができた。オフシーズンには、予想していたよりもきついトレがあり、体力のない自分は苦しく感じたこともよくあったが、エレの楽しい雰囲気のおかげでシーズンインまで乗り切ることができた。正直、こんなトレーニングが本当にスキーに必要なのかと思ったこともあったが、シーズンに入ってからやっぱり必要だったのだと感じた。体力や柔軟性の向上は、今年の課題の一つである。また、オフシーズンだからと言ってきついことばかりではなく楽しいイベントもあり、冬はもちろん北海道の恵まれた環境でスキーができ、充実した一年を過ごすことができた。

結果として、今ではこの部に入ってよかったと思っている。スキーを楽しむことができたし、入部した当初からみると、技術の向上もできたのではないと思う。しかし、この一年を振り返ると、反省すべき点はいくつかあった。

まず、滑走日数が少ないということである。シーズンが始まってからは、週末だけでなく平日もできるだけスキーに行くという生活をしてきたが、自分はスキーに行く日数が少なかったように思う。希望の学部に移行するために勉強が必要であったとはいえ、もう少しスキーに時間を割くことができたのではないと思う。岩岳の新人戦や朝里大会の結果がでて、自分の実力がはっきりと数字で表されたとき、もっとスキーに行っていればという思いを強く感じた。

そして、シーズンがもう少しで終わるというところで、けがをしてしまったことである。短い期間とはいえ、スキーができるシーズンを無駄にしてしまったわけだし、同期に迷惑をかけてしまったりもした。けがをすれば、スキーを楽しむことも、技術の向上も、全くできなくなってしまうので、安全第一という心掛けは必要だと感じた。

ということで、来シーズンの目標は、まず滑走日数を増やすこと。そして、けがに気を付けること。最後に、厳しいかもしれないが、岩岳個人戦出場、順位二桁を目指して頑張ろうと思う。

最後になりましたが、スキーの指導をしてくださった先輩の皆さん、コーチの方々、そして師匠として面倒をみてくださった栗子さん、ありがとうございました。来年もよろしくをお願いします。

おわりに

いかがだったでしょうか？

文章の長い、短い、画像を用いる、などありますが、一人一人の様々な考えや良さが現れている **Spur** となっていたのではないのでしょうか。同期や先輩、後輩の **Spur** を読むことは、いろいろな考えに触れられ、お互いにいい刺激となるのでは、と思います。

特に普段いつも関わりがあるのにこんなに深い考えを持っていたんだ！と、部員それぞれの今まで知らなかった一面をみることが出来ますね(^_^)

なかなか自分の **Spur** を読まれるのは恥ずかしいものもありますが・・・

今後も **Spur** はあってほしいなあ、とまとめながらふと感じました。

昨シーズンはコーチの方々、先輩方が支えて下さり、岩岳大会男子二連覇、女子第三位という結果を残すことができました。

今年は岩岳男女総合優勝をふたたび達成できるよう、クリスタルトロフィーを 2 つ持って帰れるよう、部員一同精一杯頑張りたいと思いますので、よろしく願いいたします！！